

□7月7日説教(短縮版)隅野徹牧師「正しくない
者も復活する希望」 使徒言行録24:10～23

本日の箇所では私が中心聖句として皆様にお伝えするのが、15節です。ここでパウロは万人救済や、無条件での罪の赦しについて言っているのではないと思います。それは15節の後半に「この希望は、この人たち自身も同じように抱いております」という言葉が合わせて語られることから分かります。

「この人たち」というのはパウロを訴えているユダヤ人たちです。彼らは、神がユダヤ人たちに与えた律法を守る人は正しい人、守らない人は正しくない人だと分けていました。律法を守らない人が復活の命をいただくということは、ユダヤ人たちが絶対に納得しないことです。

ここでパウロは復活する者、復活の命をいただく者はすべての人間だと言わずに、「正しい者、正しくない者」と二つの対照的な人に分けて話しています。ローマ3章10節等で「正しい者はいない。一人もない」とあるとおり、聖書は全ての者が神の前では本来「正しくない者」だと教えます。ですので、ここでパウロがいう正しい者の復活とは、イエス・キリストの復活のことです。

わたしたちすべての人間は正しくない者ですが、イエス・キリストの憐れみによって、特別に復活の命に与ることができるのです。「正しい者も正しくない者もやがて復活するという希望を、神に対して抱いています」という言葉は、パウロ自身がイエス・キリストに出会って、自分が正しい者ではないと分かってから、本当に彼を支える希望となりました。さらに「他のユダヤ人たちも、この希望を同じように神に対して抱いている」という言葉を使うことによって、パウロはユダヤ人たちに大切な真理を気づかせたかったのです。

あなたがたが得ようとしてやっきになっている復活の命は、私が追い求めているものと同じだ。ただしそれは正しい者になろうとして与えられるのではなく、自分が正しくない者であると神の前で認めて初めて得られるものだ。あなたたちもそのことに気づいてほしい…。パウロの言葉は私たちにも語られています。(終)